

# 消防学校だより

## 令和2年2月号

発行年月日 令和2年2月28日  
発行 宮崎県消防学校

### ★FOH（フラッシュオーバーハウス）作成

教育訓練用として活用するフラッシュオーバーハウスを作成しました。

発火から、火災の成長段階、中性帯などを経てのフラッシュオーバー発生のタイミングを映像資料のみではなく、熱や空気の流れ等を感じながら学習できればと思います。

コンクリートブロックを使用した基礎

(消防学校の匠 長友教官・巢立教官)



立派な FOH が完成しました。



## ★第 29 期警防・特殊災害科

2月4日(火)より始まった、警防・特殊災害科に県内消防(局)本部から13名が入校しました。(教育訓練実施日数13日間)

総代 三嶋 聡 (東児湯消防組合消防本部)



## ●地震津波対策・火山対策

2月6日(木)、県庁1号館5階にある災害対策本部で、県危機管理課の長尾主査、米満専門主事から本県の地震津波対策・火山対策の講義を受けました。

自然災害により大きな被害が発生する本県の地理的実状を再確認することで、安全な消防活動を実践できる様に研修しました。

県災害対策本部は、来年度には完成する予定の防災拠点庁舎へ移動するため、各学生にとっては最後の入室となると思います。



### 地震津波対策

#### 長尾 拓 主査

南海トラフ巨大地震の発生については、30年以内に70%の確率で起こると言われています。

しかし、巨大地震はいつ起こるか分からないため、常に備えておく必要があります。また、多様な発生形態であるため事前の対応も考えておく必要があります。被災地に近ければ近いほど、重要な対処にあたる「あなた」は、同時に被災者という立場にも置かれることを忘れずに。



### 火山対策

#### 米満 義人 専門主事

霧島山には新燃岳、硫黄山、大幡池、御鉢の想定火口があります。火山が噴火した際には、噴煙、噴石、火山ガス等の発生があるため、立ち入り禁止区域や通行禁止区域を設定するため、宮崎県ホームページ火山防災情報に掲載されている霧島山火山防災マップで噴火警戒レベルや規制区域を確認しておきましょう。



### ●身体管理と怪我防止

2月7日(金)、(株)エクセルの 山田 義徳 氏 に身体管理と怪我防止について講義していただきました。

消防職員は、目標を定めた日時に最高の状態の身体をつくるのではなく、いついかなる時にも良い状態の身体を作る必要があります。

日々の業務でトレーニングが出来ない際にも行えるタオルを使ったトレーニングなど、故障しない身体作りを学びました。



### ●海難救助対策

2月7日(金)、第十管区海上保安本部、鹿児島航空基地、宮崎海上保安部から海上救助対策について講義を受けました。

講師は、管区本部の救難課長をはじめ、現役の機動救難士から活動事案を交えながら海上保安庁の業務について学びました。

情報セキュリティ関係でデータでの資料はいただけてないのですが、水中での活動など映像を交え講義いただき大変参考になりました。

第十管区海上保安本部

救難課 岩本 一紀 課長 機内での活動の様子

鹿児島航空基地

機動救難士

機動救難隊(上席機動救難士)

古賀 雄一郎 隊長





特別研修参加者と一緒に集合写真



### ●チェーンソー取扱

地震や台風と自然災害の際に、倒木により車両が通行できない場合や、学校内の樹木を伐倒し訓練しました。

実際に、倒木している物をチェーンソーで切断することで、倒れ方を考慮して作業を行わないとチェーンソーが樹木に挟み込まれる事や、チェーンソー刃の目立ての善し悪しが作業効率に大きく影響する事が分かったと思います。



## ● 図上訓練

現場指揮の図上訓練を実施しました。

部隊として共通認識を持ち、声を掛け合い、指揮を執る者が誰なのかはつきりさせ、指揮者が現場を掌握することは安全管理上重要なことです。

指揮を知ることによって現場運営を学び、報告、連絡、相談の重要性も再確認出来たと思います。

訓練は指揮板の作成要領と役割分担、無線通信、現場広報等、指揮隊に必要な活動全般を実施しました。



## ● 現場活動訓練 (FFS)

高気密・高断熱の建築様式が増えた現代の建築物は、屋外からの放水だけでは消火が困難な建物が増えてきており、屋内進入を行わなければならない戦術をとらざるを得ない状況もあります。

進入しなければならない状況があるのであれば、しっかり脱出することが必要であるため、自力脱出、緊急脱出、待機姿勢の訓練を実施しました。





## ●燃焼実験

FOH を使用して燃焼実験を実施しました。

着火から、フラッシュオーバー発生まで煙の変化や熱を感じながら学習する事が出来ました。

黒煙が大量に噴出しだしてからフラッシュオーバーに移行するまでの時間は想像以上に短く、瞬時に状況判断が出来なければ炎に巻き込まれる事を学習できました。

着火

火災ブリューム



天井ジェット

中性体

室内の燃焼状況の変化がよく分かりました。



着火から 11 分後フラッシュオーバー発生

放水角度 30 度、流量 110ℓ で放水



室内に噴霧注水 白煙に包まれました。

現場でこうなると周囲が見えませんが、しっかりとした放水技術が必要です



## ●航空消防

県防災救急航空隊の 増田 純 隊長から防災ヘリ あおぞら の諸元や性能、現場要請時の注意点など、航空消防について学びました。

県防災救急航空隊が出動した案件など、防災ヘリを活用した活動事例をわかりやすく講義していただきました。

航空隊の活動は限られた空間の中で、地上よりも時間的制約のある活動が要求される中で、安全管理を徹底し活動を実施している事が理解できました。

ヘリ接近時の注意点



## ●警察機関の災害初動対応

消防が現場活動を行う際に身近に活動しているのが警察機関ですが、知っているようで知らない機関でもあります。

南海トラフ巨大地震等の大規模災害時には、県内の防災機関で三日から一週間の災害対応をする必要があります、しっかりと警察機関の体制や人員などを把握しておくことは、消防にとっての事前対策になると思います。

県警 災害・警備対策係長  
山波 晋也 警部補



県警警備部機動隊  
毛利 大輔 警部補

機動隊の工作車

工作車積載資機材



通 称 便所車

災害派遣された際の隊員のトイレ専用車

一般には開放しないそうです。



特別研修参加者と一緒に集合写真



機動隊員の数が〇〇人だとは知りませんでした。

### ●現場指揮訓練

延岡市消防本部の 新本 健太 司令補を支援教官として招き実施しました。

訓練は、建物関係者及び付近住民等からの情報収集要領、指揮活動要領としての実態把握、状況判断及び活動方針の決定、基本活動要領としての安全管理能力の向上及び小隊長として必要な事項を訓練しました。

支援教官の新本司令補から、指揮者として現場全体、隊員の動きを掌握できる立ち位置を選ぶことや、3大危険（人命危険・作業危険・延焼拡大危険）を把握し各隊に周知することの重要性など、現場指揮に必要なアドバイスを受けました。

指令書・現場確認

関係者からの聞き取り 要救助者への声かけ



訓練風景



新本 健太 司令補

振り返り

現示旗



新本司令補と一緒に集合写真



## ●CBRN 災害対応

陸上自衛隊第8特殊武器防護隊から特殊災害対応について講義を受けました。

特殊際外を表す際に、「NBC 災害」と「CBRN 災害」の用語がありますが、NBC 災害の用語は冷戦期に作られたのに対し、CBRN 災害の用語は、テロ等の非国家主体による無差別な暴力の増加と多様化によるリスクがより身近となったことで作られました。CBRN 災害はテロ対策等の文脈で言及されることが多いため、テロの増加により NBC 災害よりも CBRN 災害の方が一般的になりつつあります。

講義では、特殊災害の概要から、自衛隊の装備・編成・役割、派遣要領等の講義と、各種検知器や除染テントの見学をしました。

除染後の汚染水についても話がありましたが、自衛隊では汚染水の処理は行いますが、処分は行わないので、各自治体で処分の方法や要領について事前に対策しておく必要があります。

どの様な部隊があるにせよ、有事の際、最初に住民と接し災害対応を行うのは我々消防ですので、しっかりとした技術、知識を身につけ安全確実な対応が取れるようにする必要があります。

第8特殊武器防護隊

黒木 拓矢 2等陸尉



各種検知器の諸元・取扱説明



除染テント 内部は3レーン有り男女が別々に除染できます。

汚染水タンク



集合写真



●火災現場想定訓練

火災現場想定訓練を行いました。

訓練は屋外訓練場主棟の検索室を倉庫と想定し、指揮隊、タンク小隊、ポンプ小隊の活動を行いました。

指令書の確認、隊員の装備確認と情報の共有、周知など出動時の基本的事項から、現場到着時の活動要領など図上訓練及び現場指揮訓練で実施した教育訓練を総合的に取り入れた訓練を行いました。

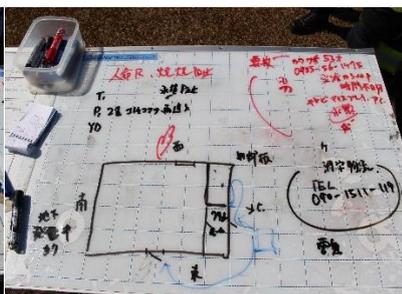
出動途上の情報収集

現場指揮本部

情報共有



活動風景



## ●学生企画訓練

警防・特殊災害科研修の総仕上げとして学生企画訓練を実施しました。

課業後の交流の時間も惜しみ、訓練計画書の作成から、計画実施のプレゼンテーション、訓練の目的、役割分担や人員配置、安全管理、時間管理表についてもしっかりと作成しました。

想定 中高層耐火増8階マンションの5階部分より出火。逃げ遅れ情報あり。



## ●事例発表・課題研究発表

事例発表及び課題研究発表を行いました。

各自5分の持ち時間で、伝えたい事をまとめ、自らの意思が相手に伝わるように話す事と、各所属の事例情報を共有することを目的に実施しました。

身近らの所属で類似事案が発生した際に適切な対応が取れると思います。



3月の主な行事予定

3月 2日(月)～13日(金)	初級幹部科
3月 7日(土)・8日(日)	消防団指揮幹部科・現場指揮課程3次
3月14日(土)・15日(日)	消防団指揮幹部科・現場指揮課程5次
3月17日(火)・18日(水)	消防団指揮幹部科・現場指揮課程6次

宮崎県消防学校

担当:伊豆元 優一(いずもと ゆういち)

電話:0985-56-0555 FAX:0985-56-1475

E-mail:shobou-s@pref.miyazaki.lg.jp